

波崎自警団（茨城県）

波崎自警団は、旧波崎町において重点的に活動しています。人口約3万8,000人で南北に全長約20 kmの縦長に伸びている地形をカバーするため3地域に分かれて活動しています。

車上ねらい等の犯罪が増加したことにより、「自分の街を自分で守る」をスローガンに掲げ、地元の青年団体である、商工会青年部や青年会議所、農業水産団体の青年部等が中心となり、平成16年6月に団員数45名で発足しました。

主な特徴としては、若さと行動力が挙げられます。平成25年から高齢化防止対策とマンネリ化防止のために、団員を「50歳以下の有志により構成する」と会則を変更し、団員の定年制を設けています。現在の団員数は122名、平均年齢42歳です。定年制についてですが、創立当初の団員が、50歳に近づいた平成25年から、50歳の定年制を設けることにしました。「もうやりたくない」といった後ろ向きな考え方ではなく、組織がより活性化するための方策であります。団員が50歳になれば、退団してしまいます。団員を拡大していかなければ、組織は当然ながら無くなってしまいます。

この表は、棒グラフが団員の年齢を示しています。赤い枠が2016年です。現在、紺色のところが20代で7名、黄緑色が30代で29名、水色が40代で56名、オレンジ色が卒団員の50歳で12名になっております。横軸は西暦で、団員が1人も増えなければ、2045年で波崎自警団は消滅することになります。本年度卒団する者が12名おりますが、今年卒団する以上の団員を必ず確保するということと、世代の少ないところを重点的に拡大していくことを目標に掲げてやっております。若い団員の入団や多くの人が入替わることによって、多くの人に防犯意識を伝えていくこととなります。波崎自警団のネームバリューも高まってきております。マンネリ化の防止や、発想力と行動力を最大限に活かした活動もできるようになり、時代のニーズも掴みやすくなってきております。今、親子2代で団員になっている者もおります。また、卒団された方の



波崎自警団の特色

50歳定年制

青パト3台所有

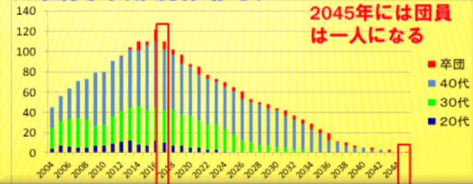
現在団員数122名 平均年齢42歳

定年制の理由

● 団員の拡大

50歳定年制の導入による組織の活性化

● 団員年齢別推移表

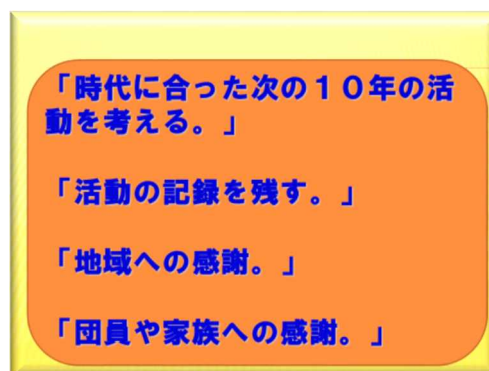


子供も入団してくれている例もあります。卒団をされた方は、地域の中でも、会社でも要職にある年齢となりますので、当自警団へ、地域や団体からの支援をいただいております。また、自分の子どもや近所の人への声掛けをしてもらい、団員拡大の支援もしてもらっています。波崎自警団の講習会や交流会等にも積極的に参加してもらっており、防犯活動等の技能伝承にも御協力をいただいております。

自警団の究極の目標は、「自分たちの街は自分たちで守る」です。昨日も鳥取で大きな地震が起きましたが、近年自然災害が多く発生しております。非常時は波崎自警団が主体となり、地域の連携の強化や事件事故の抑止活動をすべきと考え、率先して被災地に団員を派遣し、災害ボランティアとして、被災者支援や犯罪抑止対策を実施しています。

昨年は私たちの茨城県でも、関東東北豪雨がありました。茨城県常総市で、泥かきや粗大ごみの排出、炊き出しボランティアを実施しました。災害時は地域の連携が必要になるので、常総市では、地域の中で、自警団員が中心となり、被災状況の情報収集やボランティア受け入れの準備を進めていくことがとても大切だと感じました。

次に、青パトについて説明します。地元のNPO法人に協力を求めて、事業提携を結んで、青パト3台の維持費の提供を受けている状態です。また、地域の方の配慮から、波崎自警団の事務所が2か所、青パトの車庫も3棟あります。これにより、20km離れた場所も移動の負担がなくパトロールすることができます。



また、波崎自警団では、節目の年である設立〇周年というのを大切にしていこうと団員に意識させています。50歳定年ということもあり、多くの団員が入れ替わります。すると、どうしてこの波崎自警団が作られたのか、誰がどのように関わったのか等、何のための自警団なのかという存在する意義が薄れてしまう懸念があります。設立趣意書の一節に、「地域の安全確保に向けて、自らの安全は自らが守らなければならないという意識の下に、継続的で効果的な自主的な防犯活動を展開するため、自主的防犯活動組織、すなわち自警団を結成する」とあります。自らの安全は自ら守るといふ創始の精神に、いつも立ち返り、綿々と引き継いでいかなければならないと思っています。次代を担う団員のために、時代にあった次の10年の活動を考え、活動の記録を残す。地域への感謝、団員や家族への感謝を掲げ、

○周年を大事にしています。そのような中、10周年記念事業として、神栖市小中学校の防犯ポスターコンクールおよび絵画展を企画し、神栖市教育委員会や学校関係者と協議した上で、防犯ポスターコンクールを開催いたしました。この事業も、若い団員の中から、パトロールだけではなく、何か地域に浸透するような事業をやってみたいという声上がり、開催することになりました。今年で3回目を迎えました。ポスターを描きながら、家族で防犯のことについて話し合う良き機会になっております。

犯罪認知件数は、活動開始当時から大きく減少しました。これは、波崎自警団の活動だけではなく、団員の周りにはいる家族、同僚、友達といった知り合いに、防犯の意識がしっかりと浸透していることの表れだと思っております。

50歳定年制を設けることによって、多くの方が波崎自警団に関わるようになりました。多くの方が知恵を与えてくれて、様々な支援と協力をしてくれております。ただし、懸念事項としては、人が入れ替わることによって、創立の思いが忘れ去られてしまうことや当団体の継続的なモチベーションの持続等が挙げられております。現役の団員と卒団したOBとの定期的な情報交換の開催や、創立周年の記念式典や記念事業の開催等を通して、自分たちの街は自分たちで守るという創始の精神を引き継いでいこうと思っております。



質疑応答

(質問者)

定年で退団された方は色々なことを自警団さんにアドバイスされているということなのですが、地域の皆様に何か御提供されるということはあるのでしょうか。

(波崎自警団)

PTA等、地域の行政区の中に入って、自らの自警団活動というものを組織してもらったり、波崎自警団への入団紹介などがあると思います。

(質問者)

青パトを実施されているということなのですが、コースや警戒のポイント等、何か気をつけられていることはありますか。

(波崎自警団)

交番の警察官や地域の方々とは意見交換を行い、犯罪の内容も場所ごとに特色があるので、ニーズに合わせています。例えば、東部地区は海が近いので車上ねらいが多い、若松地区は住宅街で侵入盗が多い等です。